

【福島県東西しらかわ農業協同組合 地域農業再生基幹施設緊急整備事業】
「大切なのは、みんなで活用し地域発展に活かすこと」
西部共同農業倉庫と矢吹統合支店の起工式が行われました

12月14日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の第4次助成先の1つである東西しらかわ農業協同組合（福島県白河市）は、2億7,000万円の助成金を活用し、平成25年7月の竣工を予定している「JA東西しらかわ西部共同農業倉庫および矢吹統合支店（仮称）」新築工事の起工式を行いました。

東西しらかわ農業協同組合は、福島県の県南に位置する白河市、矢吹町、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村一帯に住む約1万人の農業生産者への支援を行っています。平成15年にはオリジナルブランド米「みりょく満点米」を開発し、米の海外輸出にも力を注いできました。しかし東日本大震災の激震により全5ヵ所の農業倉庫が損壊。そこで組合は、5ヵ所に分散していた農業倉庫を、米の低温管理が可能な東西2ヵ所の農業倉庫に新設・再編し、地域の農業生産の復旧、復興を目指すことにしました。昨年9月には東部共同農業倉庫（塙町）を竣工。今回の2棟目となる西部共同農業倉庫（矢吹町）および矢吹統合支店（事務所、農産物直売所等の複合施設）が完成すれば、地域農産物物流の合理化を進めるとともに、常温管理しかできなかった従来の石蔵倉庫に比べ、一層の品質向上が図れます。

起工式で鈴木昭雄代表理事組合長は「農業倉庫や直売所を作ることが目的ではありません。それを地域のみなさんがどう活かし、発展していけるかが重要です。この起工式は、復興への大きな勇気と弾みとなります」と挨拶しました。



【新施設】

- ・低温農業倉庫
建物1,216.29㎡、
建築面積1,304.83㎡、
米の標準収容量28,000
俵（左奥の建物）
※放射能の全量検査可
能な機械も導入
- ・矢吹統合支店（仮
称）建築面積916.54㎡
（直売所、購買店舗、
物品倉庫3施設含め）



あぶくま高原道路の矢吹中央ICから400m、東北自動車道の矢吹ICから2kmと好アクセスな場所に建設します



「ここを地域復興の起点に」と挨拶する鈴木組合長



地鎮の儀で鋤入れを行う有富理事長